

ど当時は各駅停車の長井線に乗っておったんですね。でありますので、なかなか赤湯駅から向こうへ行くことはできなかった。しかしながら、最近では、私は新幹線に乗っておる状況、気分なのではないかなと、そう思います。

長井市民が要求し要望したことというのは、ほとんど私は応えていただいているわけで、私は少し抑えぎみの事業の展開というものも必要なのではないかなと、特に公共事業に関しては、それはまた別です。しかしながら、生活関連とかそういうものについては、他市町村がやってくるからというのが一番弱いところだと思いますけども、やっぱり住みたくなるまちをつくっていくには長井独自の政策というのが絶対に必要なので、横並び一線になったら何も長井選ばなくても間に合うんですよね。その点も十分把握していただきたいなと、そういうふうに思います。

新幹線だけが最高の乗り物ではないと私は思っておりますので、ここら辺で各駅停車の列車に切りかえて、長井市民を運んでほしいなと、そんなふうに思って質問を終わらせてもらいます。ありがとうございます。

○**渋谷佐輔議長** ここで暫時休憩します。再開は午後１時といたします。

午後 ０時０１分 休憩

午後 １時００分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

渡部秀樹議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位13番、議席番号7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** お疲れさまでございます。緑風会の渡部です。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い、一般質問をさせていただきます。質問は大きく2件、地方創生関連事業についてと消防団の機動力向上や水利確保等について質問させていただきます。

また、一問一答にて質問させていただきますので、それぞれお答えいただきますようよろしくお願いいたします。

1件目は、地方創生関連事業について質問させていただきます。

地方創生関連については、主に地方創生参事であられます泡瀬参事にお聞きいたしたいと思っています。

参事は、長井市に来られてもうすぐ1年ですね。長井市に来られる以前は文科省、その後に独立行政法人国立青少年教育振興機構、そして内閣官房副長官付として東日本大震災復興の最前線におきまして、精力的に活動していたことをウェブ上で拝見させていただきました。

ウェブ上で拝見させていただきました地方創生参事の経歴からしますと、文部科学省の在職中にこの国の子供たちの学力の低下が国際的に問題視されていた時期でありまして、これがPISAの学力調査で判明した時期であります。さらには体力の低下、保護者の家庭教育の低下などが叫ばれていたところで、学力、体力はもとより生きる力、そもそもの根幹たる生活習慣を改善するための教育基本法改正の実務面で文科省がとった看板施策が、あの有名な早寝早起き朝ごはんの運動でありました。

地方創生参事は、早寝早起き朝ごはんの国民運動プロジェクトの中心メンバーとして4年間、行政や教育業界、国内の経済界やメディアなど、各方面に個人的な人脈や、当時、余り行政では

普及していなかったであろうSNSも駆使しながら啓蒙活動を全国に展開したことが、子供たちの就寝時間、起床時間、朝食摂取率などを改善させ、国の統計自体の改善にもつながったということでありました。ちょっと資料なんかでも確認とれております。

その後、一度は事業仕分けで廃止という烙印を押されました独立行政法人国立青少年教育振興機構に出行され、目玉施策を立案、実施し、その立て直しに尽くしたということでありました。ちなみにその独立行政法人、今でも存続しており、私が昔、勤務していました旧花山村の中にあります国立花山青少年自然の家の本部が、その独立行政法人国立青少年教育振興機構であります。私は今でもさまざまな野外活動等でその施設、使わせていただいていますので、多方面で確認がとれており、また資料にも名前が載ってございました。

直近では、東日本大震災の際に内閣官房副長官付となりまして、2人で現地入りし、以後4年3カ月、被災規模が全体の5割を占めると言われている最大の被災地、石巻市、東松島市、女川町の3市町を担当し、これまでの教育行政とは全く無縁の集団移転や区画整理のインフラ、産業、被災者支援など、さまざまな分野で次々起こる全ての課題をワンストップで受け、その課題の根本の原因を探り、まるでどこかの国の工作員のごとく解決策を講じながら政治や行政、各業界、住民の各方面に働きかけたということでもあります。ちなみに私が公務員時代に石巻市、東松島市、女川方面の初任者研修や中間職員研修の同期、またその上司の方々からも復興に尽力した人物として名前が上がり、確認もとれております。

この経験からすると、参事はその時々 of 暗いムードや状況を立て直すという職務経験が非常に豊富であります。まさに地方創生するために公職につく、公務員をやってこられたようにも

思えます。また、ウェブ上では数十年先を見据えた仕掛け人という言葉で紹介されております。

大分前置きが長くなってしまいましたが、地方創生関連事業を推進する上で、長井市の現状をどう見て、どこが根本の問題で、それを解決するためにはどういう方向に向かえばよいのか、意味合い的には今の長井市が地方消滅せず長きにわたり存続させるためにはどうすべきか、これまでの文科省、そして独立行政法人並びに東日本大震災復興の経験を踏まえた視点で地方創生参事に考え方をお聞きしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 泡瀬栄人地方創生参事。

○**泡瀬栄人地方創生参事** まずは、綿密な身辺調査、まことに恐れ入りました。

少し長くなりますが、大震災発災からもうすぐ6年になりますため、被災地のことも交えながらお話をさせていただきたいと思います。

ご案内のとおり、昨年度3月まで石巻に4年間おりました。急激に人口減少した被災地は、未来の日本の地方の姿であると思いました。例えば私が担当させていただきました女川町においては、2015年の国勢調査とその前の調査とを比較すると、主に転出等でございますけれども、人口が37%減少、そして現在は石巻市に入っております旧牡鹿町においては43%の減少、旧雄勝町に至っては74%の減少であります。

それらの地域の復興に向かうこの6年の過程を見ていますと、この長井の地方創生のヒントがたくさん詰まっております。被災地では支援という名で総理直轄の復興庁が音頭をとって、各省庁が一丸となってまちづくりの計画策定ですとか予算策定等の支援を行って、場合によっては市町村の役所が本来行うべき内部調整まで行うこともしばしばありました。自治体によっては何千億円の復興予算がつけられたところもありますけれども、そこの自治体の事業運営がスムーズに進むかどうかは予算の規模というよりも、その自治体の議会と役所と業界と住民が

いかに同じ方向に向かっているか、まとまっているかにかかっていたという感想でございます。これがばらばらである場合、いかに国が支援してもその自治体や地域には手のつけようがなかったという感想であります。

改めて、被災地に4年間駐在して気づいたことは、復興の進捗が思わしくない自治体の進捗おくれの原因は、被災前からの問題が非常に多く含まれていると思われることでございます。

その主なものとしては、第1に行政と議会との関係、この悪さでございます。例えば復興に向かおうとするそれぞれの認識が異なって、政争をしてしまっているですとか、あとは本筋とは関係のない議論をしているということですか、前もって役所に確認すればわかるような基本的な状況確認をわざわざ議会の場で尋ねることが多いですとか、施策のよしあし問わず批判をすることが使命であると思っている議員の方々が結構多くあることですか、これらによって行政職員の疲弊、前向きな施策を打ち出そうとする職員のやる気の喪失などを引き起こして、負のスパイラルが生じて、新たな試みがなされなくなって、スピードが極端に落ちてしまうという状態になるところもあります。

進捗おくれの第2といたしましては、行政の意思決定、いわゆるガバナンスですけれども、ガバナンスの問題であると思います。現在の地域や現場の状況がすぐにトップまで上がってこないですとか、あとは上がってきても大変遅くなるなどで、手を打つタイミングを逸してしまうということでございます。

第3に、この議会の状況ですとか行政との関係、またガバナンスの問題も起因いたしまして、どうせ何をやっても変わらないという住民の諦めでございます。

これが復興の進捗が思わしくない被災自治体の大きな根本的な問題であると思っております。

このような状態に至っている自治体に国がさまざまな支援を行ったとしても、復興を加速させることはなかなか難しいという感想ございました。

そこで、長井市においても共通点がございます。役所と議会と業界、住民の個々の個人個人の認識、特に地方創生に向かう認識が一致していないというところが多いことでございます。長井は、人口ビジョンでもご存じのとおり、有効な施策を打っていかなければ人口減少がとまらずに遠い未来の長井市の人口は計算上ゼロになってしまいます。地方創生とは、人口減少に歯どめをかけることでございます。長井が消えてなくなることを阻止する取り組みでございます。おのおのが今まだパワーが残っているうちに手を打たなければ、人が消えてしまうということというその危機感、認識がまだまだ市内全体で醸成されていないところが不一致の原因であると思われまます。これが長井の地方創生を推進する上での根本の課題であると思っております。

長期的な危機を払う努力が優先順位としては第1だと思っております。その上で緊急的な案件ですとか、短期的な危機への対処をしていかなければ、方向性を見誤ってしまうと思います。まずは役所と議会と業界と住民の意識が一体となる仕掛けづくりであると思います。

ことに議会の場においては、ご指摘という観点よりも、一緒によいものをつくろうという豊富なご経験をお持ちになっている議員の皆様からの前向きで建設的なアドバイスが今の長井には必要であると思っております。これとあわせて、長井消滅に歯どめをかける施策を行政で打っていくことであろうと思います。

次に、長井創生の方向性については、大きく2点あると考えております。

1つは、住民の皆様新しいことにチャレンジして頑張れば収入になるんだという自信を持

っていただきながら、行政がなりわいを確保して所得が上げられる仕掛けをつくっていく産業育成であると思います。

もう一つは、新たななりわいを生み出し続けていくことができる人材の養成、特に幼少期のうちから保護者や教育関係者を含めた大人がその意識を持って人材養成につながる教育、子育てを行っていくことであると思っています。これは長期スパンになりますが、確実に成果が出ると思います。いかに継続していけるかが鍵になってくると思います。

以上が教育、子育てをリーディングプロジェクトの柱に掲げた我が市の地方創生における方向性であると考えます。

以上、被災地の自治体状況、現地において肌で感じてきた者であるがゆえに、こういった厳しいこととお話しさせていただきました。表現等で各議員の皆様にお気にさわることはありません、ご容赦いただければと思います。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

行政ガバナンスの問題、意識の不一致など、少し厳しいお話もありましたが、内容をずっと聞いていくとまことにぶれがなく明確であったと思います。

地方創生への突破口は、ある程度の長期スパンで地域全体の意識が同じ方向に向かうように努め、地域が一体感を持って問題に取り組むことが必要だとの提言であると、そのように捉えてよろしいでしょうか、地方創生参事に伺います。

○**渋谷佐輔議長** 泡瀬栄人地方創生参事。

○**泡瀬栄人地方創生参事** そのとおりであると思います。例えば、団体スポーツなどでも、いかに実力があつたとしてもばらばらだと勝てないというのと同じだと思います。

計画の名称自体がまち・ひと・しごと創生総合戦略という名前での地方創生というのは動いております。その名のとおり、これはある意味戦い、作戦計画、戦いの作戦計画だと思っております。それは自治体みずからの戦いであり、ほかとは地域間競争もしなければならないという戦いであると思っています。ですから、通常モードではなくて、この場合には非常事態だということだと思います。そういう意味で、早い段階で一体感を持つということが大事であると思っています。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

参事は4年3カ月、復興に尽くしてきたと、やはり危機感ですとか小さなものでも希望の光をしっかりと見定めていると感じてお聞きしました。

私も、岩手・宮城内陸地震の折ですが、栗原市の職員でありました。災害後の絶望感、そして時折あらわれる希望、その入りまじった日々、思い出しました。いやが応でも感覚と嗅覚は何か鋭くなっていくというのを感じたものでありました。

また、参事が文部科学省職員時代に取り組んでいた早寝早起き朝ごはんですか、今では学校の教育の場でも家庭でも合い言葉のように使われています。私自身、長井市に今、5人の子供がおりまして、また、宮城県にも2人、7名の子供の子育て中であります。保育園、小学校、中学校、高校などのPTA活動、親会などで、そこでも合い言葉ですね、これはね。早寝早起き朝ごはん、使われています。そう認識しております。

早寝早起き朝ごはんの国民運動のプロジェクトチームの中心メンバーでありました泡瀬参事が長井の地方創生参事として勤務なされているということは、長井市の地方創生、つまり人口

減少の歯どめにも、長井市の人口減少の歯どめに対しても心強いと感じました。今後ともご指導いただきたいと思います。

次の質問に入らせていただきます。

本市における総合戦略のリーディングプロジェクトである教育、子育ての方向性、進め方についてどのように考えているのか、地方創生参事にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 泡渕栄人地方創生参事。

○**泡渕栄人地方創生参事** 大枠で3つの仕掛けが必要であると思っております。

まず第1に、幼年期から長井を好きにさせられるような取り組み、例えば現在も各地域で進めております、長井の心推進事業などの取り組みを継続していくことであると思います。

第2に、子供や若者が世界と商売ができる意欲とスキルを育てることであると思います。例えば、長井小学校第一校舎ですとか、その他自然環境なども生かして、主体性を持った子供の育成のために、地域または組織のリーダーですとか起業家の素地をつくるキャリア教育の機会をつくっていくことであると考えております。また、国内屈指の英語教育である伊佐沢小学校モデルの普及を全校に強力に推進していくことであると思います。

そして第3に、地頭を鍛えるということであると思います。脳を鍛えると同時に、英語教育の土台となってグローバル人材の養成の基礎となる国語力を乳幼児期から読み聞かせ、音読という手法を通じて家庭において取り組んでいたく仕掛けであると考えております。

あわせて、全ての仕掛けの大前提といたしまして、祖父母ですとか保護者も含めた早寝と早起きと朝食の摂取、これらの大切さ、スマートフォン、ゲーム、テレビの危険性を訴えるアウトメディアといった基本的生活習慣の徹底があると考えております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 細かいところまで答弁ありがとうございます。

長井を好きになってもらう、長井の心推進事業の推進、推進が2回続いているわけですけども、私自身、大好きな長井市の獅子舞の後継者として、そして地元の獅子舞保存会の事務局として、長井に戻ってきた経緯があります。また、私の所属する獅子舞保存会の団体では、若者たち皆、長井市と長井の獅子舞が大好きで地元就職を選んだ者ばかりです。私は幼稚園や小学校でも獅子舞の指導をさせていただいておりますが、長井の心の事業の一環であります長井北中の修学旅行時に東京都の大田区、梅屋敷商店街での長井の品々を販売して長井の心を学ぶ、あやめんご活動でございますが、そのあやめんご活動の初年度で、あの長い梅屋敷商店街を生徒たちが扮する黒獅子が舞ったんですね。それを指導した獅子舞指導師が私なんです。そして、獅子も幕も笛も太鼓もばちも、全て私個人の持ち物をお貸ししてやっていただきました。そのときの縁で数人の若者が今現在、私と一緒に獅子舞の勉強をしております。そして、もちろん長井市内に就職しております。皆、長井を愛しています。

ですから、長井を好きになってもらう事業というのはとても大事な事業で、私も大賛成であります。

また、世界と商売ができる意欲とスキルを育てる事業、地頭を鍛える事業に関してもまことに共感が持てる事業だと思っております。

次の質問に入らせていただきます。

本市は、伊佐沢小学校で全国でも先進的な英語教育を推進し、来年度から市内の全小学校にも伊佐沢小学校モデルを普及していく予定であります。そのことがどのように地方創生に生きていくのか、目算はあるのか、地方創生参事にお伺いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 泡渕栄人地方創生参事。

○**泡渕栄人地方創生参事** 近い将来、国内では人口減少によって市場全体が縮小していくことは明らかでございます。長井が人口減少によって地方消滅を免れて生き残る手段は、海外と直接つながって直接ビジネスができること、これが大きなポイントになると思われます。

長井で育った子供たちが長井に住みながら、あるいは長井を離れたとしてもいずれ長井に戻ってきたり、別の地で活躍していくためには、山形県外はもとより、国外と取引ができる実力とスキルと主体的な意欲の3つが必要になってくると思っています。その実力とスキルを修得する上で避けて通れないものが、実際に使える英語であり、ICTであると考えております。

伊佐沢小学校は公立小学校では国内屈指の、既に国内屈指の高い英語レベルでございます。1年でそこまでいきました。しかも、勉強のための英語ではなくて実用英語でございます。公立でここまでのレベルの小学校は見たことがないと文科省関係者、あとは英語教育業界も驚いているところでございます。中でもオンライン英会話というICTも活用しながら行っている伊佐沢小学校モデルを市内の全小学校、またさらには再来年度は全中学校に広めていき、海外とやりとりができる実力とスキルを習得させていくことについては長期スパンにはなりますけれども、地方創生における我が市の最大の武器の一つになると思っております。

また、さらには、どのように海外とつながって実際のビジネスにつなげるかということを今のうちから考えていく必要があります。そのため、現在、海外と長井が直接取引できないか、民間や国の機関とも情報交換をしながらプランを検討しているところでございます。これを今後、短期、中期的ななりわいの創出と所得水準に向上に合わせて子供の英語教育、起業家教育等にも結びつけていくことができるのか検討してまいりたいと考えております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 大変魅力的な答弁ありがとうございます。

さらにお聞きしますが、まず1点だけ先に、気になるところがございまして、先見の取り組みである伊佐沢小学校の英語教育はすばらしい成果を上げていると、私も同感であります。今後も期待が持てる取り組みであると思っておりますが、少し対外的にインターネット等の情報の発信がPRが余りされていないんじゃないかなと思って見ておりました。その件について、地方創生参事はどのようにお考えでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 泡渕栄人地方創生参事。

○**泡渕栄人地方創生参事** お答えいたします。

これは教育委員会の地方創生担当教育参事としてお答えさせていただきますけれども、まず、私の親元の文科省もそうですが、教育機関というのは教育を売り出すとかPRするという文化がそもそも少ないです。非常に苦手でございます。ですから、そういうホームページに今回載せていなかったということになっているんであろうと思っています。

しかしながら、シティプロモーションとしては教育は重要なもので、素材としては重要なものであると思いますので、今後は伊佐沢小学校の英語教育のことも含めまして、教育というもう今では我が市の一押しの商品をホームページ等で掲載していきたいと考えております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

これからの行政はさまざまな面でプロモーション活動がとても重要だと私も思います。すばらしい取り組みでありますので、ぜひ市内外に情報発信していただきたいと思ひますし、そのような体制の構築を常々できる体制をとっていただきたいと願っております。

もう一つお聞きしたいのですが、先ほど海外

と長井市が直接できないかと、民間や国の機関とともに情報交換を図りながらプランを検討しているとのことでありましたが、実際、想定できる国家はあるのでしょうか、地方創生参事にお伺いいたしますが、答えられる範囲もあると思いますので、できる範囲でお答えください。お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 泡瀬栄人地方創生参事。

○**泡瀬栄人地方創生参事** お答えいたします。

まだ具体的な国は言えないところでございますけれども、ただ経済連携協定、EPAを結んでいる、日本と結んでいる国との取引を念頭に考えております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

具体的には言えないということでありましたが、経済連携協定、EPAを締結している国となると外務省のウェブサイトのほうでいろいろ確認ができると、外務省のほうでちょうど、私も気になりまして、経済連携協定、EPAというのをたまたま別の機会にあけてみて印刷してたんですけども、さまざまなすばらしい国家が、これから伸びる国家もあるようですので、長井市にとってよい状況に進むことを期待しております。

次の質問に入らせていただきます。

地方創生関連事業で整備が進められている長井小学校第一校舎の利活用事業の方向性についてどのように考えているのか、地方創生参事のお考えをお伺いしたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 泡瀬栄人地方創生参事。

○**泡瀬栄人地方創生参事** お答えいたします。

地方創生関連の交付金、その他、補助事業等を活用しながら整備と活用方法の検討を行っているところでございます。

まずは、地方創生関連の交付金の活用条件が稼げるものをつくることであります。また、我

が市の地方創生における総合戦略のリーディングプロジェクトの中心が教育、子育てと位置づけていることもありまして、それに関連した施設とするという方向で進めているところでございます。

この2つの条件を満たす場合には、大幅な黒字の施設というものがゴールではないと思われます。多少の黒字でよいのでお金が落ちて、集客ができるという施設であろうと思われます。

第一校舎は、郷土を愛する教育の観点、また、キャリア教育、あるいは起業家教育の観点で利用者の主体性を養う取り組みが行われて、市の教育、子育てを中心とした地方創生の施設であると、すなわちランドマークとなることがまず第1点。

一方で、先日、2月25日のシンポジウムで登壇いただきました、マナビノタネの森田代表もおっしゃっていましたが、大人にとっても、子供にとっても、家族にとっても居場所となる幸せを分かち合えるという要素を入れること、これがもう一つであると思います。

この2つの要素をもとに、多少の収益を生み出しながら運営することを考えることであると思います。

現在、具体的には、ブックカフェですとかさまざまな職業体験などをする取り組みを想定しておりまして、その中でどのように収益を生み出す方法があるのか検討する必要があると考えております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

さらに地方創生参事にお聞きします。

地方創生の事業により第一校舎が長井を愛する教育、キャリア、起業家教育などの観点で利用者の主体性を養う取り組みが行われるような拠点になり、多少の黒字になる程度の利益が出ればよいと考えてよろしいということでしょうか。

か、地方創生参事にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 泡瀬栄人地方創生参事。

○**泡瀬栄人地方創生参事** おっしゃるとおりでございます。多少の黒字であってよいと、多少の黒字であることでよいと思います。体験というものは渡部議員もご存じで、もうプロでございますので十分ご存じだと思いますけれども、あんまりお金にならない、収益が上がらない事業でございます。じゃあ仮に大きくもうけるということに力を入れてしまうと、そもそも学校施設であったところを活用するという意義が崩れてしまうのではないかなという心配がございます。

まずはその大切なものは、先ほどの森田代表の言葉をまた引用させていただきますけれども、大人でも、子供でも、家族全員であっても、いかに幸せを分かち合えるか、居心地のよい空間であるか、その上でどれだけ集客をするかということであると考えております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

この厳しい世の中を生きていくためには、人としての多様性ですとか人間力が必要であると私は感じております。子供たちを対象とするさまざまな行政支援はとても重要なことですが、長期スパンで考えていきますとキャリア教育などの多様性ですとか人間力を養える施設であり、マナビノタネの森田代表のおっしゃっていたとおり、大人にとっても、子供にとっても、また家族にとっても居場所となる幸せが分かち合える施設は必要であると私も感じております。

学びの場でありながら、集える場所で、憩える場所、安らげる場所、そしてほどよい収支バランスと、やんわりと方向性が見えてきたと思います。

地方創生参事、一般質問を長々とおつき合いいただきましてありがとうございました。いず

れまたよろしくお願ひいたします。

次の質問に入らせていただきます。教育長にお聞きいたします。

在校生を対象とした長井小学校第一校舎の思い出づくりをどのように検討しているのかお聞きしたいと思います。教育長、お願ひいたします。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 渡部議員からは、在校生を対象とした長井小学校第一校舎の思い出づくり、どのように考えているかというご質問をいただきました。

長井小学校の第一校舎はご案内のとおり、平成27年の7月から子供たちは原則立入禁止というふうになっているわけございまして、それまでの間、子供たちとそれから第一校舎とのかかわりはさまざまございました。例えば、掃除の時間はもちろんですけども、それ以外にも特に最上級生、6年生でございますけれども、登校するとすぐにボランティア活動として、これ、伝統的にずっと先輩から受け継いできたんですが、モップがけとか雑巾がけを毎日、毎朝行っておりました。そのおかげで床が非常にあのようにはびかり磨き上げられ、子供たちも大事に守ってきた校舎だという意識が根づいてございます。

また、写生などの時期になりますと、多くの子供たちが校舎の内外から第一校舎を題材にした絵をたくさん描いてまいりました。絵画展のときにも中央廊下にだあつとあの第一校舎の絵が並ぶ姿は壮観でございます。

それから、そのほかにも家庭科の実習とか、それから給食の搬入口でありましたので、小さい子から6年生までがそこから給食を持ち出して自分の教室に運ぶということがございました。つまり、第一校舎は本当に子供たちとともにあったという言い方ができるかと思います。

それから、第二校舎、第三校舎があるわけで

すけれども、第一校舎から第二校舎へと続く渡り廊下、これ非常に広く開放的で、木造とそれから鉄筋コンクリートと質感の異なる校舎がつながれているという、大変珍しい独特の雰囲気もございました。

これまで1年半にわたって立ち入りが禁止をされていますけれども、今でも子供たちにとっては思い出の校舎であることには間違いがないというふうに思います。

今後は学校としてではなく、長井市民全体の財産として保存し再利活用されることになるわけでございますけれども、その前に子供たちにとってもある程度、一区切りつけることが教育的にはやっぱり大切なのではないかなというふうに思っております。

工事が始まりますと、まず、渡り廊下が撤去されることになるわけですが、渡り廊下から見る第一校舎であったり、それから慈愛の森や校門から眺める第一校舎であったり、それを在校生の思い出づくりとして心に焼きつける活動、これを何らかの形で実施できるよう、学校側と十分相談をしながら考えてまいりたいというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 教育長、答弁ありがとうございます。

私もモップがけ、雑巾がけした記憶がございます。今も受け継がれていたとは、非常にうれしく思っております。古いものを大事にしていこうという心を私も長井小学校で学んだと、今でも思っております。だから私はいまだに獅子舞というね、ほかの地域から見ればちょっと一風変わった古い文化を継承しているんだなと思っております。教育長の言うとおりで、思い出づくりについて本当に考えてもらっていてうれしく思っております。

この第一校舎の思い出づくりですね、本当、子供たちは毎日見ている、先生たちも毎日見て

いるんですけども、それがあの日突然なくなってしまうということでもあります。第一校舎は残りますが、第二校舎と第一校舎をつなぐ渡り廊下から見える光景、見納めになってしまいます。教育長も考えておられるようですので、子供たちの記憶と、また記録に残るようなお願いをしたいのですが、重ねて教育長にお願いいたします。この件についてどう思われますか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 全く渡部議員のおっしゃる通りでございます、子供たちにとって何げない、全校集会から帰るときにぱっと見える第一校舎、あるいは途中まで掃除してここから立入禁止だよと言われている第一校舎なんですが、今の2年生までは余り立ち入ったことはもちろんないわけでございますけれども、何らかの形でそういうふう子供たちは目の中にイメージとして非常に焼きつけているというふうに思います。

私としては、校長先生から全校集会等できちんと第一校舎の成り立ちであったり、それから大事にしてきた先人の思いであったり、先輩の思いであったり、それから、これからこれは長井市民みんなの財産になるんだと、耐震補強をして新しく生まれ変わって活用されるんだということを子供たちにわかる言葉で校長先生からお話をさせていただいて、あとは各学年ごとにさまざまな取り組みをしてもらいたいと、そんなふうに考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** ありがとうございます。

1年生から6年生の在校生に限らず、私もそうですが、先生方や卒業生の方々もこの議場にもいっぱいおられますよね。あのやわらかな木のぬくもりを感じる木造の渡り廊下は、やはり思い出の光景であると思います。

例えば創立記念日のときにでも思い出せるような写真も含めましてご対応のほどよろしくお

願いして、この件に関しては終わりにしたいと
思います。よろしくお願いいたします。

次の質問に入らせていただきます。

大きく2件目は、消防団の機動力向上や水利
確保等について質問させていただきます。

平成29年度施政方針のみんなで築く安全・安
心なまちづくりの項で、市民生活を守る消防団
の活動の充実について丁寧に上げられておりま
すが、消防団の装備等の更新整備の現状と課題
について、きょうは総務参事お休みですので、
総務課長に確認したいと思います。

資機材運搬搬送車の新規配備に伴う消防ポン
プ庫の移動、更新、状況についてですが、新規
に車両が配備された地区の消防ポンプ庫の現状
を確認させてください。総務課長、お願いしま
す。

○**渋谷佐輔議長** 高石潤一総務課長。

○**高石潤一総務課長** 平成27年度で新たに15台の
資機材搬送車の配備を行いまして、そのうちポ
ンプ庫に格納できないため、ポンプ庫の更新整
備を図った場所は8カ所でございます。その8
カ所のうち、解体してその場に建設した箇所は
2カ所、場所を移転して新築した箇所は6カ所
となっております。

また、平成28年度につきましては14台の車両
配備を行いまして、そのうちポンプ庫に格納で
きないため更新整備を図っているポンプ庫は10
カ所でございます。その10カ所のうち、解体し
建設中の箇所が3カ所、場所を移転して新築し
ている箇所は7カ所となっているところでござ
います。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** さらに総務課長にお伺い
いたします。

たまたま私が所属しております消防団の班で
使わせていただいているポンプ庫もご配慮いた
だきまして、車両配備に伴い、教育庁舎の隣に
移ったわけですが、旧税務署時代の空き車庫の

ほうを使わせていただいております。

同様に、車両配備に伴い、新築ではなく既存
の施設にポンプ庫を移動した班はあるのでしょ
うか、総務課長にお伺いします。

○**渋谷佐輔議長** 高石潤一総務課長。

○**高石潤一総務課長** 場所を移転して新築してい
る箇所は28年度は7カ所でございます。解体
し建設中の箇所は3カ所になっておるところで
ございますけれども、その場所でなくて移転し
たところということでしょうか。そこはちょっ
と把握しておりませんが。

○**渋谷佐輔議長** 渡部議員、質問を明確にお願い
します。

7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** ちょっと資料がないとい
うこともあると思いますし、一任している部分
もあるのは聞いておりますので、答弁いただ
いたとして次の質問に入らせていただきます。

総務課長にお聞きいたします。

警鐘台の廃止とホース乾燥タワーの設置状況
について、またこの資機材搬送車の新規配備に
伴い、消防ポンプ庫を移設した地区のホース乾
燥タワーの設置状況を確認させてください。総
務課長、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 高石潤一総務課長。

○**高石潤一総務課長** 平成27年度と平成28年度で
更新整備いたしましたポンプ庫18カ所のうち、
17カ所にホース乾燥タワーを設置しておとこ
ろでございます。残りの1カ所につきましては、
既存のホース乾燥タワーをそのまま使用してお
ります。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** ありがとうございます。

うちの班なんですけども、移設した先にもち
ろんホース乾燥タワーがないところなんです。今
までは公民館前に警鐘台がありまして、消火
活動、訓練の折にはそこで干して万全な体制を
もって次の出番に間に合わせる形を持っており

ました。

今現在、うち以外にもあるかもしれませんが、移動した先で警鐘台もない、ホースタワーもない、干すことができないようなポンプ庫があるのでしょうか。把握できていれば教えてください。また、改善するような見込みはあるのでしょうか、お聞かせください。

○**渋谷佐輔議長** 高石潤一総務課長。

○**高石潤一総務課長** 私どもでは把握しておりませんので、消防主幹ですとおわかりになると思います。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 市長、よろしく願います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** この件につきましては、消防主幹より答弁をいたさせます。

○**渋谷佐輔議長** 渋谷正通消防主幹。

○**渋谷正通消防主幹** 渡部議員のご質問にお答えいたします。

ホース乾燥施設がないポンプ庫につきましては、現在2カ所というようになっております。1カ所については本町ポンプ庫、もう1カ所につきましては、このたび十日町のポンプ庫が移転いたしました第1分団のポンプ庫、その2カ所になっております。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** さらにお聞きしますが、通告してませんので市長経由という形とらせていただきます。

それを予算措置いただき改善する見込みはございますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** もちろん検討しておりますが、詳しいことにつきましては消防主幹から答弁いたさせます。

○**渋谷佐輔議長** 渋谷正通消防主幹。

○**渋谷正通消防主幹** お答えいたします。

現在、その2カ所につきましては、1カ所、本町駐車場内のポンプ庫につきましては、ちょっと借地部分でございまして、地権者との契約等を結ばないと建てられない状況でございます。あと、今回、移転いたしました教育委員会の敷地内、そちらにつきましては、敷地内のスペースがないというふうなことで、今のところ設置はできないといったようなところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 確認できていないこともあって、まことに申しわけありませんでしたが、

市内のポンプ庫の状況を平らに見ていただいて、同じような装備、施設設備で消防活動ができるようにご指導、ご確認のほどお願いいたします。

次の質問に入らせていただきます。総務課長にお伺いいたします。

まちなかの内水対策、床上、床下浸水対策と消防水利確保対策についてどのように考えているのかと。平成27年9月定例会におきまして、まちなかの内水対策として、河川網図を整備してから検討するとの答弁がありました。その後、どのように進展しているのか、進捗状況をお伺いします。総務課長、お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 高石潤一総務課長。

○**高石潤一総務課長** 平成25年、26年と続いた豪雨災害に対応いたしまして、平成27年度、平成28年度にかけて欠損箇所や破損部分について、その補修工事としてブロック積み工や擁壁のかさ上げ工、河床の根固め工を実施するとともに、河川維持補修費において随時、土砂のたまった箇所についてしゅんせつを行っているところでございます。

大規模工事といたしましては、金井神地内の天の沢水路改修工事、延長が131メートル、水路幅が2メートルが完成いたしました。現在まで災害箇所の復旧を優先に行っておりましたが、同時に28年の3月に直営で、ただいまあり

ましたように、中央地区の河川網図を作成し、現状を把握したところでございます。

今後とも水害に強いまちづくりを目指し、総合的な河川計画を立て、整備を図っていく予定でございます。

内水対策といたしましては、最上川の洪水到達時間前にいかに内水を排水できるかが重要な要素でございまして、そのためにも流速を速める水路整備は最も効果的であるというふうに考えておるところでございます。以上です。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7番 渡部秀樹議員** 答弁ありがとうございます。

かなりの進捗状況で進んでいるということが確認とれました。まず安心いたしました。排水というのが物すごく、上流から来る前に今ある部分をどんどん流してしまわねばならないと。長井市というのは最上川で考えると、また上流に大きな水がめを持っておりますので、野川水系のほうから先に排水してしまわないと大変なことになる、我々消防団としても一議員としても感じております。確認させていただきました。

次、市長にお伺いいたします。

市長には消防団の活動にご理解、ご配慮いただきまして、まことにありがとうございます。また、装備についてもさまざま整えていただきました。まことにありがとうございます。

ことしの冬も文化財防火デーの1月末の寒い日ですね、防寒着の綿の厚み、すごく助けられました。ありがとうございます。

また、今年の豪雨時ですね、高野町で床上、床下浸水対策として土のう積みしましたが、その作業時にも一部、厚い暖かいの着ている方もいましたし、私はオレンジ色のかっぱを着させていただきました。大変ありがとうございました。

市長にはさまざまな備品等の整備いただきま

して、充実していただいているわけですが、1点だけご検討していただきたい提案がございます。

まちなかの内水対策として、また消防水利確保対策として、まちなかの河川の全体的な掘り下げ、全体といいましても浸水しやすいエリアの下上になると思います。また、その部分的な掘り下げ、スポットをつくることによって少し排水等がしやすくなるのではないかと考えております。

(「時間ない」の声あり)

○**7番 渡部秀樹議員** ああ、時間ないですね。例えば5センチ……。

(「もっと早く言おう」の声あり)

○**7番 渡部秀樹議員** 例えば掘り下げますと、1メートル川幅で1キロで50立米ほど確保できますので、また、一部でも深いところあれば排水できると思っておりますので、その件について市長、どうお考えになりますか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** まちなかの内水対策でございますが、議員おっしゃるとおり、水路勾配を確保することは流速を確保する上で重要なことでございます。したがって、整備計画を立てる上では現状の縦断勾配を精査しまして、中だるみ箇所、あるいは逆勾配箇所の解消を図ることが大切でございます。

ただしかしながら、流末と水路の一番末が最上川の樋門の底板の高さに決まっておりますので、したがって、議員がおっしゃるように全体的な掘り下げというのは水路勾配を損なうおそれがあるのではないかと考えられます。まずは土砂だまりの箇所は随時しゅんせつを図っていくことが重要であると考えています。消防水利を確保するために、部分的に泥だめをつくることについては、工事の増水等により一瞬にして土砂が堆積してしまい、果たしてその効果が発揮できるか、さらには頻繁な竣工、しゅん

せつが必要になりまして、維持管理面で非常に難しいのかなと考えているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 7番、渡部秀樹議員。

○**7 渡部秀樹議員** ありがとうございます。

私も、みんなで築く安全・安心なまちづくりのために、現場サイドとしても議員としても知恵を絞りお話しさせていただきたいと思いますので、これからもよろしくお願いいたします。

以上であります。ありがとうございました。

小関秀一議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位14番、議席番号11番、小関秀一議員。

○**11番 小関秀一議員** 3日間の一般質問、さまざまなテーマで議論なり提案なりがありました。特に抱える課題、市長からあった施政方針にかかわっての新しい年度に向かって市民が幸せに暮らせるまちづくりに少しでも近づければというふうなことを思いました。

きょうはたまたま少し雪模様になったというふうなことでありますけれども、もう少ししますと新しい年度のスタート、あと区切りの卒業シーズン参ります。

きょうの少し雪降りを眺めながら天声人語なんか見てたら、目に入ったのが、ランドセルの話が朝日新聞には出てまして、何かなと思ってよく読んでみましたら、国際女性デーだそうであります。

私も孫がことしの春、小学校に入学しますので、去年のお盆ころ、ランドセルを買ってけんなねべなと、じいじが買わんなねらしいなということがあったので、選びに行ったら、孫の希望は青だったんです。親とかうち、じい、ばばの希望は女の子なので赤だべというふうに思ってやったんだけど、負けました。希望を

聞いてしまったんです。

でも、これ、きょうの新聞を見ますと、男の子は黒か青、ままごとは女遊びという既成概念からずっと離れらんにえていたのが今までの男社会、女社会、そして子育てとかいろんなことさかかわってきてんのかなというふうにつくづく考えさせられっと、色の問題というか、そういうことばかりでなくて、例えば議員も女の方も議員になってやるわけだけんども、この議場に女性の管理職については女性の方が一人もいやんねえというのは、やっぱりこれ異常なんだべなというふうなことを3日間、そこさずっと座らせてもらって感じたところであります。ぜひ、新年度に向かってこれから予算、そして新しい人事の部分が始まるわけでありますので、十分に熟慮というかお願いをしたいもんだなというふうに思います。

施政方針のポイント、そして先ほど地方創生の話も渡部議員のやりとりの中でもありましたけれども、やっぱり人の流れをつくる長井創生の施策が29年度のポイントだべなというふうに思います。その中で公共施設のあり方の議論やら、産業の支援のあり方やら、さまざまな広がりの中で将来に向けての施策の展開がされていくんだべなというふうにつくづく思っておりますので、具体的には、大きく分けて観光、あと就農の問題、通告しております産業の問題等々でお考えをお聞きしていきます。

まず最初に、長井版DMO、長井観光局、ちょうど設立して1年になります。3月22日設立だったようですが、新しい商品開発なり、特に春からの道の駅の開設等もきっかけにして、さまざまな提案をなさってるなというふうなことで、しかも、特にインターネット含めて発信が新たというか、非常に変わってきたなというふうに時々見させていただいております。

長井を何で売っていくんだというふうな、観光というのは非常に難しいポイントだというふ